

3 回の事例検討を通して見えてきた地域の課題

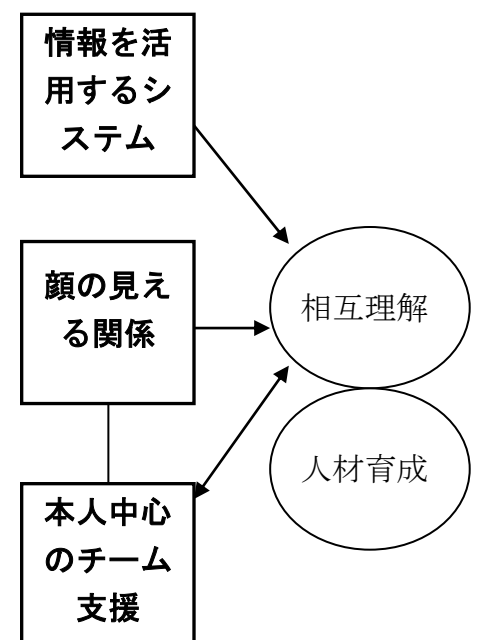
第 1 回 「支援の幅がもっと広げられたのではないかな？」⇒「フォーマルな支援ばかり投入してしまったのではないかな？」

- 情報共有・活用の充実（基幹など）
- エネルギーをそそげる場（スポーツ、図書館など）
- 理解してもらえる地域づくり
- 人材育成（中核＋つなぐ）
- 一緒に考えてくれるシステム（簡単に）
- メンバー活用の仕組み（事例検討）
- ピアサポーター同行（自立生活援助）



第 2 回 「退院に向けてどこにバトンタッチできるかな？」

- 地域の中の相談の場
 - 年齢のはざま
 - 病院→地域へのつなぎ目
 - 教育から近づいて来てほしい
 - 子どもをかかえる家族の支援
 - ピア（思春期）（先輩）の人材バンク→セルフマネジメントへ
 - 情報の交通整理
 - 相互理解…分野（教育等）を超えて
- この場をどうやって作っていくか



第 3 回 「地域移行へのつなぎ方が上手くいっていたかな？」⇒「今後の関わり方をどうしていったらよいか？」

- モニタリングの頻度・変更のタイミング
- ホームヘルプの支給がスムーズに出来たらよかった
- 関係機関が顔の見える関係づくり（情報ネットワークの利用等）
- 医療とのつながり方
- 年度替わりの担当の引継ぎ方
- 障がい→介護へ切り替わる時期のつなぎ。意識して関わる
- 就労 B の特徴など一覧でわかるように
- グループホーム等次々増える事業所の情報をどこでどうまとめるか
- 安定しているときにも会議が必要かも
- 福祉ケースワーカーや保健所等との関わり
- 社協のあったかサービス
- 休息目的でショートステイ等使える所が 1 か所しかない
- 色々なサービスをつないでいく仕組み

